

地域の発展に尽力した先人たち

秋田県種苗交換会の開催にあたって

今秋、10月30日～11月5日の期間、「第131回秋田県種苗交換会」がにかほ市で開催されます。

明治11年から始まり、戦時中も絶えることなく開催されてきた、この秋田県最大の農業イベントには、本市の先人たちが関わってきました。

種苗交換会は当初、秋田市だけで開催していましたが、その後、県内各市町村での開催となつてちょうど100年目にあたる記念の年、市では交換会を誘致して先人たちの遺徳を偲ぶと同時に、にかほの未来の農業・産業の発展へつなげていきます。



乾田馬耕の様子

種苗交換会の歴史

秋田県勸業課長の種田魯一が主催して開催した第1回勸業会議の際、平沢村在住の佐藤九十九郎（勸業係として室沢に勤務）が「種子交換の見込書」を提議し、これが採用され種苗交換会の歴史（第1回は明治11年開催）が始まりました。

明治期のかほ市の農業

にかほ市内の水田は明治の中期まで、胸までつかる深い水田で、1反歩あたり米3俵程度の収穫しかありませんでした。

幕藩体制が崩壊し、新生明治政府による変革の時代でもありませんでした。年貢（税金）が物納から金納に変わり、米価下落の年などには税金に苦しみ、土地を手放す農家が多く出たのです。

茂介による農業の近代化

平沢の豪農だった齋藤茂介は地主として、困窮する農民を救うために米の増収を図り、農業の近代化を決断しました。

明治27年、茂介は、農業先進地だった庄内酒田の本間家を頼り、技術者を呼んで、乾田馬耕と耕地整理の有効性を各農家に説いて回りました。しかし「稲は水で育つもの」という意識が強い多くの農家は、簡単に賛同せず、罵声を浴びせられることもあったといいます。これに屈せず茂介は指導を続け、増収のめどが立つようになった矢先の明治32年（1899年）に没してしまいました。



齋藤茂介 (1832～1899)

明治の変革期に乾田馬耕、耕地整理、稲の品種改良、肥料の管理など農業近代化・合理化を進める。



齋藤宇一郎 (1866～1926)

父茂介の後を継ぎ、農業の近代化を進める。また、衆議院議員として地方開発、農政の刷新に努めた。「農聖」と謳われる。



齋藤憲三 (1898～1970)

TDK創業者。宇一郎の三男として「農工一体」を推し進め、さまざまな事業に取り組む。衆議院議員としても科学技術振興に尽力した。

にかほの先人たち

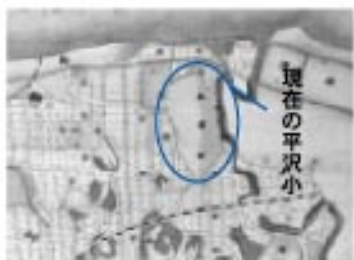
宇一郎による農村振興

茂介の死去を受けて、子の宇一郎がその後を継ぎました。父と同様、反対に遭いながら、増収を補償し、乾田馬耕試作農場を設置するなどして改革を進めました。明治38年までの5年間で平沢地区の約80%が乾田に切り替わりました。耕起作業は1日2畝歩（2アール）から1反歩（10アール）へ、収量も1反歩3俵程度から6～7俵以上へと飛躍的に改善されたのです。

乾田化は冷害対策にも有効であり、秋田県全体でも乾田を奨励することになりました。

同時に、乾田馬耕推進のため耕地整理を進め、自分の土地を分け与えるなどしてこれも成し遂げました。

その後、衆議院議員として羽越線や横荘線の開通に尽力するなど、地方振興に多大な成果を



耕地整理図

憲三による農工一体

TDK創業者の憲三は、父、宇一郎の意を継ぎ「豊かな農村づくり」のためにさまざまな事業を起こします。農家の副業としての製炭（炭焼き）事業や養鶏・養豚事業、アンゴラ兎飼育事業など、その多くは失敗に終わってしまいました。しかしその過程で「フレライト」と出会い、昭和10年東京電気化学工業（現在のTDK）を設立します。

「農業と他産業（工業）を結びつけることが農家を豊かにする」「農工一体」と考えていた憲三は、農家の次男三男の雇用の場を創ろうと、昭和15年、故郷の平沢に工場を設立しました。

TDKは、現在も多くのにか

ほ市民が働く企業となつています。

宇一郎と同じく衆議院議員となつた憲三は、科学技術の振興を政治課題とし、科学技術庁の創設に貢献するなど、新たなものに挑戦する心を常に持っていました。

先人たちの思いをつなげる

明治年間に齋藤茂介が農村の疲弊を救うため、米の増収を目指して始めた農業の近代化は、子の宇一郎が引き継ぎ、農村・交通改革を含めて、地域の発展へとつながりました。さらにその子、憲三が故郷と工場を結びつける農工一体を実行し、豊かな農村を実現しました。

第131回秋田県種苗交換会が豊かな地域づくりのための契機となるよう、現在、準備をしています。

「鳥海の清水がはぐくむ大地の芽ぐみ」

第131回秋田県種苗交換会キャッチフレーズが決定！

応募総数157点の中から、次のおり決定しました。

【最優秀賞】
キャッチフレーズとして決定
「鳥海の 清水がはぐくむ 大地の芽ぐみ」
渡邊和彦さん（大町）

【優秀賞】
「秀峰鳥海の 恵みを大地へ 海へ」
齊藤昌己さん（上荒屋）
「山と海と 美農里（みのり）の大地と」
菊地則子さん（平沢）

◆問合先◆種苗交換会事務局
☎38・4302

臨時議会

平成20年第6回臨時議会が7月28日に開かれました。

上程された議案は「平成20年度にかほ市一般会計補正予算（第3号）」など4件です。

全て原案のとおり可決・承認されました。

上程された主な議案

◇平成20年度にかほ市一般会計補正予算（第3号）
TDK硬式野球部の都市対抗野球全国大会出場に伴う激励金や市民応援団を派遣するための費

◇にかほ市特別職の職員で常勤のもの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例制定について

用など、歳入歳出とも923万円余が補正されました。

平成20年8月1日から8月31日までの1カ月間、市長と副市長の給料を10分の1減額する条例改正です。これは「象潟海水浴場東屋倒壊事故」の発生における、管理監督責任を明らかにするためのものです。